Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォガイド

2023.6.12-18

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

12日　月曜

哀歌

3:40 自分たちの道を尋ね調べて、【主】のみもとに立ち返ろう。
3:41 自分たちの心を、両手とともに、天におられる神に向けて上げよう。
3:42 「私たちは背き、逆らいました。あなたは赦してくださいませんでした。
3:43 あなたは、怒りを身にまとい、私たちを追い、容赦なく殺されました。
3:44 あなたは雲を身にまとい、私たちの祈りをさえぎり、
3:45 私たちを諸国の民の間で、ごみ屑とされました。」
3:46 私たちの敵はみな、私たちに向かって口を大きく開け、
3:47 恐れと落とし穴、荒廃と破滅が私たちに臨んだ。
3:48 娘である私の民の破滅のために、私の目から涙が川のように流れる。
3:49 私の目は絶えず涙を流して、やむことなく、
3:50 【主】が天から見下ろして、顧みられるときまで続く。
3:51 私の目は、都のすべての娘たちを見て、この心を苦しめる。
3:52 私の敵たちは、わけもなく、鳥を狙うように、私をつけ狙った。
3:53 私を穴に落として、いのちを滅ぼそうとし、私に石を投げつけた。
3:54 水は私の頭の上にあふれ、私は「断ち切られた」と言った。

エルサレムの悲惨さが記されています。それが主への背きから来るものであることを記して、主に立ち返ることが勧められています。そしてここにはエレミヤ自身の「涙が川のように流れる」という思いが溢れています。

エレミヤは主の御心を明らかにすることによって、民の反感を買い迫害されたのですが、そこには恨みも私心もありません。自分のことは忘れてただただ民のことを心から思っているのです。これはイエス様がご自分に敵対するエルサレムに対して「ああ、エルサレム」と泣かれてことを思いださせます。

主によって持ち答える人はこのような信仰者です。私たちは正しいことを言うこともできますし、事実を指摘することもできますが、それで主の真理と言うことが許されるのではないのです。その動機が愛そのものから来るのでなければ、その主張は害にさえなります。自己主張になってしまうからです。

自分の義、経験や知識、苦労や恨みを認めてもらいたいとの思いから解放されて、主の愛に満たされて語りましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

13日　火曜

哀歌

3:55 「【主】よ、私は御名を呼びました。穴の深みから。
3:56 あなたは私の声を聞かれました。私のうめき声に、私の叫びに、耳を閉ざさないでください。
3:57 私があなたを呼び求めると、あなたは近づき、『恐れるな』と言われました。
3:58 主よ。あなたは私のたましいの訴えを取り上げ、私のいのちを贖ってくださいました。
3:59 【主】よ。あなたは、私が虐げられるのをご覧になりました。どうか、私の訴えを正しくさばいてください。
3:60 あなたは、私に対する彼らの復讐を、彼らの企みのすべてをご覧になりました。
3:61 【主】よ。あなたは、私に対する彼らのそしりを、彼らの企みのすべてを聞かれました。
3:62 私に向かい立つ者たちの唇と嘲りが、一日中、私に向けられています。
3:63 彼らの起き伏しに目を留めてください。私は彼らのからかいの歌となっています。
3:64 【主】よ。彼らの手のわざに応じて、彼らに報復し、
3:65 彼らの心に覆いをかけ、彼らに、あなたののろいを下してください。
3:66 御怒りをもって彼らを追い、【主】の天の下から根絶やしにしてください。」

この箇所には「主よ」ということばが多く見受けられます。これこそが哀歌にある希望です。エルサレムが包囲されてから陥落するまでの絶望的な悲惨を記す預言者ですが、それは単に嘆きだけにとどまらず、主に向くところから始まる希望に至るのです。
ここではまだ希望が見えない状態かもしれません。

Bible Reference 聖書の記述

「主よ」というのも、苦し紛れの叫びのようなものかもしれません。しかし主を呼ぶというのは祈りであって、他の何物でもなく主に頼る思いの表れです。
私たちも信仰の祈りとは言えないような、ただうめきのような叫びがあるかもしれません。そのようなときも「主よ」と、どんなことばでも良いですから、主に向きましょう。そのような苦難のときではなくとも、日常的に主に向くことから始めましょう。そうすることで、取り乱すような時でも主に向くことができるでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

14日　水曜

哀歌

4:1 ああ、金は黒ずみ、美しい黄金は色あせ、聖なる石は、道端のいたるところに投げ捨てられている。
4:2 高価であり、純金で値踏みされるシオンの子らが、ああ、土の壺、陶器師の手のわざと見なされている。
4:3 ジャッカルさえも乳房をふくませて、その子に乳を飲ませる。しかし、娘である私の民は、荒野のだちょうのように無慈悲となった。
4:4 乳飲み子の舌は渇いて上あごにへばり付き、幼子たちがパンを求めても、割いてやる者もいない。
4:5 ごちそうを食べていた者たちは街頭で痩せ衰え、緋色の衣で育てられた者たちは堆肥をかき集めるようになった。
4:6 娘である私の民の咎はソドムの罪よりも大きかった。人の手によらずに、一瞬で崩壊したソドムより。
4:7 その聖別された者たちは雪よりも清く、乳よりも白かった。そのからだは珊瑚よりも赤く、容姿はサファイアのようであった。
4:8 しかし、彼らの顔はすすより黒くなり、街頭でもそれと分からない。彼らの皮膚は干からびて骨に付き、乾いて木のようになった。
4:9 剣で殺される人は、飢えで殺される者たちより幸せであった。その者たちは、畑の実りがないために、痩せ衰えて死んでいった。
4:10 あわれみ深い女たちが、自分の手で自分の子を煮た。娘である私の民が破滅したとき、それが彼女たちの食物となった。

エルサレムが敵に包囲されて、食料も水も枯渇した時に、これほど悲惨なことが起きました。それは単に辛いというだけではなく、人としての尊厳が失われたのです。醜くなったのは外見だけでなく、親の心さえももはや子を想うことさえできなくなってしまいました。そのような出来事が国中を覆うのですから、全くの絶望状態にあります。

エレミヤがなぜこのような悲惨さを書き残したのかというと、それは民の罪を知ってもらいたいからでした。敵の攻撃ではありますが、それは主の守りがなくなってしまってからであって、なぜ守ってもらえないかというと、民が主に再三背いたからにほかならないからです。

もしもイスラエルに希望がないなら、エレミヤは預言する必要はないでしょう。何よりも主は彼に預言せよとは言わないでしょう。現実を認め、主の御心を悟り、自分の間違いや足りなさを認めることは、主からの回復につながってゆくことを信じましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

15日　木曜

哀歌

4:11 【主】は憤りを出し尽くし、燃える怒りを注ぎ出された。主はシオンに火を放ち、火はその礎を焼き尽くした。
4:12 地の王たちは信じていなかった。世界に住むすべての者も。仇や敵がエルサレムの門に入って来るとは。
4:13 これはその預言者たちの罪、祭司たちの咎のためである。彼らは、その町のただ中で、正しい人たちの血を流した。
4:14 彼らは血で汚れ、目の見えない人のように街頭をさまよい、だれも彼らの衣に触れることはできなかった。
4:15 「向こうへ行け。汚れた者」と人々は彼らに叫ぶ。「向こうへ行け。向こうへ行け。さわるな。」彼らは、立ち去って、なおもさまよい歩く。国々の中で人々は言う。「彼らは二度とここに寄留してはならない」と。
4:16 【主】ご自身が彼らを散らされた。もう彼らに目を留められることはない。祭司たちは尊ばれず、長老たちは敬われなかった。
4:17 そのうえ、私たちの目は衰えていき、助けを求めたが、空しかった。私たちは、救いをもたらさない国に期待をかけ、見張り場で見張りをしたのだ。
4:18 私たちの歩みはつけ狙われて、広場を歩くこともできなかった。私たちの終わりは近づいた。私たちの日は満ちた。私たちの終わりが来たのだ。
4:19 私たちを追う者たちは、大空の鷲よりも速かった。山々の上まで追い迫り、荒野で私たちを待ち伏せした。
4:20 私たちの鼻の息、【主】に油注がれた者が、彼らの落とし穴で捕らえられた。私たちは「この方の陰なら、国々の中でも生き延びられる」と思っていた。
4:21 ウツの地に住む娘エドムよ、楽しみ喜べ。だが、あなたにも杯は巡って来る。あなたは酔って自分の裸をさらす。
4:22 娘シオンよ、あなたへの刑罰は果たされた。主はもう、あなたを捕らえ移すことはなさらない。だが、娘エドムよ、主はあなたの咎を罰し、あなたの罪を暴かれる。

Bible Reference 聖書の記述

エレミヤは預言者として正しく神の言葉を語りましたが、民は迫害しました。滅びの宣告や罪を告発があったからです。民は耳障りの良いことばだけを受け入れることが多かったので、ある預言者や祭司たちはそのような、人間本位の内容をあたかも神の御心のように語ったのでした。その結果として「正しい人たちの血」が流れることとなりました。

神の言葉として語るときには責任があります。私たちは新約聖書によれば「選ばれた民」であり「新約の祭司」ですから、自分の主張をあたかも神の御心のように語ることがないように気をつけなければなりません。

霊的指導者の目が曇ることによって、イスラエル全体の「目が衰えて」ゆき、「救いをもたらさない国」すなわちエジプトに望みをかけるようになってしまいました。その結果としてバビロニアから敵をみなされて滅ぼされたのです。

教会の指導者である牧師、教師、役員、リーダー、スポンサーはもちろんのこと、新約の祭司であるクリスチャンみなが正しく神のことばを語りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

16日　金曜

哀歌

5:1 【主】よ。私たちに起こったことを心に留め、私たちの汚名に目を留めて、よく見てください。
5:2 私たちのゆずりの地は他国人の手に、私たちの家は異国の民の手に渡りました。
5:3 私たちは父のいないみなしごとなり、母はやもめのようになりました。
5:4 私たちは自分の水を、金を払って飲みます。薪も、代価を払って手に入れます。
5:5 私たちはくびきを負って、追い立てられ、疲れ果てても憩いを与えられません。
5:6 私たちは十分な食物を得ようと、エジプトやアッシリアに手を伸ばしました。
5:7 私たちの先祖は罪を犯し、今はもういません。彼らの咎は私たちが負いました。
5:8 奴隷たちが私たちを支配し、彼らの手から解き放ってくれる者はいません。
5:9 荒野には剣があり、私たちは、いのちがけで食物を得ています。
5:10 私たちの皮膚は、飢饉の激しい熱で、かまどのように熱くなりました。
5:11 女たちはシオンで、おとめたちはユダの町々で、辱められました。
5:12 首長たちは彼らの手で木につるされ、長老たちは尊ばれませんでした。
5:13 若い男たちはひき臼をひかされ、幼い者たちは薪を背負ってよろめきました。
5:14 長老たちは、城門のところに集まることを、若い男たちは、楽器を鳴らすことをやめました。

哀歌の内容を要約したような構成がこの5章です。主に惨状を訴えています。私たちは苦しいことや悔しいことなどがあると、まず人に訴えてしまうような者ですが、先ずは主に訴えるのです。または人に訴えていた自分に気づき、思い直して主に訴えるべきです。人は願ったような反応はしてくれませんし、何の助けにもならないことが多いのです。仮に助けられたとしても、その後が面倒になることが多いものです。必ずしも純粋な愛で助けてくれるとは限りません。とにもかくにも主に訴えましょう。

しかもここにあるように、ただ苦しいだけではなく、その惨状を具体的に、その気持をありのままに伝えましょう。主は私たちの心が開かれるに沿って、そのみわざをなしてくださいます。本当に自分は弱い者となってしまったことを、隠さずに謙遜になって祈りますしょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

17日　土曜

哀歌

5:15 私たちの心から喜びが消え、踊りは喪に変わりました。
5:16 冠も頭から落ちました。私たちは、ああ、罪ある者となりました。
5:17 このために、私たちの心は病みました。これらのために、目は暗くなりました。
5:18 荒れ果てたシオンの山の上を、そこを狐が歩き回っています。
5:19 【主】よ。あなたはとこしえに御座に着かれ、あなたの王座は代々に続きます。
5:20 なぜ、いつまでも私たちをお忘れになるのですか。私たちを長い間、捨てておかれるのですか。
5:21 【主】よ、あなたのみもとに帰らせてください。そうすれば、私たちは帰ります。昔のように、私たちの日々を新しくしてください。
5:22 あなたが本当に、私たちを退け、極みまで私たちを怒っておられるのでなければ。

14節までは主に惨状を訴えるのですが、ここでは「罪ある者となりました。」と、その原因がどこから来るのかを告白しています。それまでは罪を認めずにいたものであっても、ここまで主から見放されるならば、主の十戒にあるように罪を犯した者を認めざるを得ないということです。

これは主の厳しさを感じざるを得ないところですが、しかしそこにこそ主の慈しみの始まりがあります。私たちは主の守りや回復というものが、単に自分の都合の良いように事が進むというのではない、その真理を知る必要があります。主の恵みは主の主権の中にあるのです。ですから、私たちが主を主としてあがめて従うとき、悔い改めるべきことは悔い改めるとき、主の主権が私たちの内にも回復して、主の勝利が表れるのです。

Bible Reference 聖書の記述

そういうして19章からあるような主の力が表され、「あなたのみもとに帰らせて」くださるとともに、主の恵みが回復するのです。

主の憐みを求めるならば、主の主権を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

18日　日曜

使徒

1:1 テオフィロ様。私は前の書で、イエスが行い始め、また教え始められたすべてのことについて書き記しました。
1:2 それは、お選びになった使徒たちに聖霊によって命じた後、天に上げられた日までのことでした。
1:3 イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。
1:4 使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。
1:5 ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。」
1:6 そこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」
1:7 イエスは彼らに言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです。
1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」
1:9 こう言ってから、イエスは使徒たちが見ている間に上げられた。そして雲がイエスを包み、彼らの目には見えなくなった。
1:10 イエスが上って行かれるとき、使徒たちは天を見つめていた。すると見よ、白い衣を着た二人の人が、彼らのそばに立っていた。
1:11 そしてこう言った。「ガリラヤの人たち、どうして天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。」

Bible Reference 聖書の記述

「前の書」とはルカによる福音書です。ルカはイエス様の生涯、特に宣教と十字架と復活を書きましたが、さらに必要を感じて（聖霊に導かれて）、そのイエス様のみわざがどのように広がって行ったのかを書きました。
弟子たちはまだ「イスラエルのために…」と、十字架はユダヤ人の救いのためと思い込んでいましたが、イエス様は「…地の果てにまで」と言われました。つまり十字架の救いが全人類のためであることを表しておられます。
神様の救いのご計画、また救いの愛は壮大なものです。１つの民族に限定されるものではなく、また1つの時代で終わってしまうようなものではありません。
アダムとエバが罪を犯したときすでに救いの約束を与えてくださり、そして最終的には「またおいでになります」と、終末の再臨まで見通しておられるのです。弟子たちはそのような文脈の中で、十字架について、救いについて、そして全世界への宣教について理解していきました。それらはすべて聖霊によるものです。
聖霊により悟り、聖霊により力が与えられて地の果てにまで出ていった結果が、今の私たちの救いです。私たちも聖霊を受けて、日々世界に出てゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？